

『まがいもの』

汚いホウキのエレキギター
まがいもの まがいもの
雑巾丸めた剛速球

まがいもの まがいもの

カッコつけたくてトルストイ
まがいもの まがいもの
つま先立ちでボブ・ディラン
まがいもの まがいもの

どんなに無様なはじまりも
どんなに不純なきっかけも
気づいたときにはぴったんこ
オキニイリ オキニイリ

なんやかんやで好きなもの
まがいもの？ ほんまもの

ピカソもどきの落書き帳
まがいもの まがいもの
砂場の隅の姫路城
まがいもの まがいもの

「誰よりあなたを愛してる」

まがいもの？ まがいもの？

「それでもあなたを愛してる」
そろそろもう 言えるかな

市川司幸

まがいもの／エバーグリーン
青霞／つつんで／水中魔都
優しいアナタ
青いカーテン／事故です。
散歩／DRIFTERS
二十二世紀少年

ぶかぶかなはずの制服も
誇張混じりの告白も

今ならすっかりぴったんこ
言えるはず 言えるはず

すったもんだがあつたけど
まがいもの？ ほんまもの

どんなに無様なはじまりも
どんなに不純なきっかけも
気づいたときにはぴったんこ
オキニイリ オキニイリ

なんやかんやで好きなもの
まがいもの？ ほんまもの

ようやく I LOVE YOU

『エバーグリーン』

太陽をミドリで塗っても構いません
そこにはステキな思いがあるのでしよう
朝のニュースでしみじみ頷くくらいに
賢くて ナンカイで タメになる
L A L A L A L A L A L A

朝食はミドリのレタスとパセリが
きつとヤマモリ盛られているのでしよう
弱い胃腸や頭をイタワツテくれる
ビタミンと カロテンと なんちゃらと
L A L A L A L A L A L A

信号はブルーか いやいやミドリか
分厚い本にも記してあるでしよう？
妙な議論でふつふつしている間に
後ろから カン高い クラクション
L A L A L A L A L A L A

目の色も素肌もミドリに染めたら
見えない誰かが文句を言い始め
それにイチイチあーだのいーだの言うのは
なんだかな 虚しいな そうじゃない？
L A L A L A L A L A L A

家の裏からひそかにエバーグリーン
道路を這い出してグリーン
ドアの隙間からグリーン
夏に焼かれて 冬にしばれて

気づいたときには素敵なエバーグリーン

エバーグリーン すべてエバーグリーン
L A L A L A L A L A L A
エバーグリーン すべてエバーグリーン
H O H O H O H O H O

ほんの一日クスリを忘れただけで、もう
草いきれ 藪林 大森林
L A L A L A L A L A L A

家の裏からひそかにエバーグリーン
道路を這い出してグリーン

ドアの隙間からグリーン
夏に焼かれて 冬にしばれて
気づいたときには世界はエバーグリーン

『青霞』

生まれたときから僕は空気を吐かずに
薄ら青色の霞が漏れては消えた

生まれたときから汚れたものが見えずに
どれも青色のガラスを通して見えた

何を歌ったって語ったって
青色なんだよ

綺麗ごとなんだ、ぜんぶぜんぶ
空っぽなんだよ

きみの見ている世界は
何色なんだろう

綺麗じゃなくていいんだ、きみの
レンズで見たいよ

泣きじゃくるきみのための言葉は出ないで
薄ら青色の霞が漏れては消えた

嗚咽交じりで「消えたい」というきみの姿は
映らず青色の揺らぎがそこにはあった

きみの悩みさえも薬掻ききりとも
何にも見えない

ぐずった傷も、ぜんぶぜんぶ
真つ青になる

きみが抱えるころは

何色なんだろ

どんなに膿んでもいいんだ、きみの
ほんとは知りたい

僕のなかにあるものを、青色の塊を

取り出して黒い色で塗りつぶしたい

きみを理解したいのに、少しでも届きたいのに

何度やっても喉から出るのは

綺麗すぎる霞

何を歌ったって語ったって

青色なんだよ

綺麗ごとなんだ、ぜんぶぜんぶ

空っぽなんだよ

きみの見ている世界は

何色なんだろ

綺麗じゃなくていいんだ、きみの

レンズで見たいよ

『つつんで』

パイナップル潰した 右足で潰した

今日は朝から寒い日だったから

とげが足に刺さって 歩きにくくなったら

胸も高鳴り温かくなったよ

甘い果汁にまみれたあとで

とびきり冷たいシャワーを浴びて

そしたら優しくつつんでみせて

「それでいいよ」とつつんでみせてよ

ビニール傘わすれた 靴箱にわすれた

今日は朝からどしやぶりだったのに

雨で足がすべって 階段から落ちたら

みんな笑って幸せになるかな

白いドレスが汚れたときに

夢のフリルもみんなやぶけて

そしたら豪雨でつつんでみせて

悲しくなるほどつつんでみせてよ

本の棚を燃やした ガソリンで燃やした

息が詰まって溺れるとこだった

すべて煙になって 空に昇って行って

はじめて涙があふれてきたよ

家もようやく身軽になって

コロロもなんだか気軽になった

このままカラダもつつんでおいて

燃やしておくからつつんでおいてよ

『水中魔都』

酸素も水素もいらなくなっても
会いたい誰かにキスをするために
きつと唇は残るんだろう

きみの素敵なポニーテールを
きれいな視界で見たい気持ちから
きつと瞳は進化したんだ

満月をひとつ ぷかりと吐いて
水中魔都に明かりが灯る

ねえ
もしも君が海に溶けたら
すくつた水はきみの欠片で
沈んだぼくはきみに包まれるかな

今日

闇の海に街は沈んで

ネオンサインがドロップみたい
水面に光り消えないでいるよ

言葉も活字も海月になっても
ぶくぶくあぶくの形と青さで
ぼくらは愛を語るよ、ずっと

昔むかしの人びとは皆

酸素の世界のビルの隅の小部屋で
ラジオを聴いて眠りについた

ねえ

それでぼくら息もしないで
もっと遠くの空を見てたら
満月までも水に揺れていったんだ

今日

闇の海に街は沈んで
ネオンサインがドロップみたい
ぼくらを照らし 月も見えないや

ぼくと君の手と目と目
暗いサンゴの奥からメトロ
小さなライトが独り語り

そして水中魔都も眠って
すべての魚がベッドに入り
さみしい たのしい 混ざりおやすみ

ねえ

もしも君が海に溶けたら
すくつた水はきみの欠片で
沈んだぼくはきみに包まれるかな

今日

闇の海に街は沈んで
ネオンサインがドロップみたい
水面に光り消えないでいるよ

『優しいアナタ』

優しいアナタが 優しいアナタが

指でクロアリ押すのを見ちゃったよ
ぐりぐり潰していくのを見ちゃった

あーはー ふふふふ
あーはー ふふふふ

優しいアナタが 優しいアナタが
唾をそこに吐くのを見ちゃったよ
ぺちやくちや飛ばしていくのを見ちゃった

あーはー ふふふふ
あーはー ふふふふ

誰にも言いはしないよ
ゼツタイ秘密にするよ
だけれど雪ん子 ちらちら降ったなら
あまりの寒さに口まですべっちゃやう

優しいアナタが 優しいアナタが
エツチな言葉を使うのを見ちゃったよ
なんてヒワイな言葉を使うの

あーはー ふふふふ
あーはー ふふふふ

優しいアナタが 優しいアナタが
明かり点けずに泣くのを見ちゃったよ
何も言わずに泣くのを見ちゃった

あーはー ふふふふ
あーはー ふふふふ

誰にも言いはしないよ

ゼツタイ秘密にするよ
フツウのアナタをじろじろ見ていたら
ボクもなんだか優しくしちやいそう

あーはー ふふふふ
あーはー ふふふふ

誰にも言いはしないよ
ゼツタイ秘密にするよ
アナタの秘密がみんなにバレたとき
ついでにボクまでヒヤヒヤしちやいそう

『青いカーテン』

すべての男女に優しいマークは何色なんだろう
ココロとカラダのどっちがみんなの中心なんだろう
中間地点を見つけたいけれどどこにあるんだろう
そんなことだけ考えていたら朝になったよ

青いカーテンを開けて
花瓶もテレビもトマトも誰かも
おはよう おはよう おはよう

早くキミに会いたくて
昨日のラインの最後の言葉に
おはよう おはよう おはよう

すべての祈りがつながる先には誰がいるんだろう
どれだけ自分をさらけ出したら手が届くんだろう
正しい言葉が静かな暮らしを連れてくるのだから
そんなことより薬缶に冷たい水を流し込もう

青いカーテンを開けて
暖炉も納戸もリンゴも何度も
おはよう おはよう おはよう

昨夜の既読が残されて
見せない顔まで考えてしまっ
おはよう おはよう おはよう

すべての命が満たされることはあり得るんだろう
時間もお金も配ったとしたら幸せなんだろう

どんな不幸が柱のかげから覗いてるんだろう
考えすぎて寝れなくなるとかそんなのイヤだよ

青いカーテンを開けて
ダンテもカントも安吾も誰でも
おはよう おはよう おはよう

今日も返事は来ないかな
それでも明日は明日の言葉で
おはよう おはよう おはよう
おはよう おはよう おはよう

『事故です。』

突然電車が揺れて 静かに止まった

「A B 駅のホームで人身事故です」

あまりの長さに人はいくつか夢見

電車が動きだしてゼンブ忘れた

アナタの名前はなんですか

笑顔はどういう顔ですか

ゴハンは何を食べて 最後の手紙は誰へ？

ボクの耳には「事故です。」「事故です。」

ただ、それだけ

あしたはいつものように電車は回り

誰もが忘れたところに「人身事故です」

帰省ラッシュで手にはクッキーの缶

どれだけぶつけられても碎けはしない

アナタの名前はなんですか

好きな人とかいましたか

ベッドのそばには本が？ 玄関先には花が？

遠い場所から「事故です。」「事故です。」

ただ、それだけ

ボクはアナタに会いたい

アナタとおしゃべりをしたい

何気ない会話を 他愛ない会話を

『散歩』

マンション五階を飛び降りて

パジャマのまま街を歩く

ポケットのなかは百円と

青いガラスの破片

こんな夜中に行くなんて

いけないことかもしれないな

だけれど今は見逃して

なんだかきみしいんだ

今夜はひとりで歩く

綺麗な言葉も優しい台詞も何にもいらない

あたまの上に夜があるならそれでいいんだ

つめたい芝生に背中をつけて星を数えたい

そのままゆったり眠りに落ちたら起こさないでよ

車道にサンダル投げ出して

裸足になって石を蹴った

裸足につたう痛みだけが

僕の証みたいだ

死にたいわけでもないけど

生きたい、なんて叫べないや

ちかちか光る信号機

みたいな半端な僕だ

星は夜空のかなた

『DRIFTERS』

ゆったり吐いた呼吸と一緒にどこかに行きたい

東の国の岬の光を見つけに行きたい

ひとりでいるとどんな言葉も静かになってる

だからさ、朝陽はどうかこのままやっつてこないで

もつとこつちにおいで

こころよ、隣においで

一緒にいるならかなしくもないさ

もつとこつちにおいで

切ない言葉を吐いて

今夜はなんでも聞いてあげる

綺麗な言葉も優しい台詞も何にもいらない

あたまの上に夜があるならそれでいいんだ

つめたい芝生に背中をつけて星を数えたい

そのままゆったり眠りに落ちたら起こさないですよ

「明日になったら」みたいな言葉を聞かせないですよ

今日は何も歩かなかった

ずっと空を見ていたんだ

草がシャツに刺さって

生きてる心地がしたよ

今日は何も歩かなかった

野球が見える河川敷

球をこぼしたあの子は

今頃泣いてるかな

Good Bye and Good Night, Drifters

星も見えない夜だから

不安で泣いてもいいのかな

何も見えない夜だから…

今日は何も歩かなかった

明日はなんとか歩かなきゃ

傷の痛みはあるけど

どうにかなるんだろう

今日は何も歩かなかった

向こうの二人がキスをする

その頃ボクは寝むって

ヨットの夢を見てる

Good Bye and Good Night, Drifters

寝むれやしない夜だから

昨日のことでも話そうよ

朝までは長い夜だから…

今日は何も歩かなかった

ずっと空を見ていたんだ

もしもこのまま倒れたら

何が起ころうか

Good Bye and Good Night, Drifters

星も見えない夜だから

不安で泣いてもいいのかな

何も見えない夜だから…

Good Bye and Good Night, Drifters

寝むれやしない夜だから

昨日のことでも話そうよ

朝までは長い夜だから…

『二十二世紀少年』

ぼくは知っている

ぼくらは知っている

命を懸けてたたかうことは

やっぱり綺麗に見えることを

それを目指して走ることが

正解なんてわからないけれど

それでワルモノになったのなら

そのときはそのときさ

だから、あるとき

ひとりも悲しませないって

ひとりもさみしくしないって

ぼくらは決めたんだ

二十一世紀の空の下

そんなにうまくいかなくって

ひどいことだってやったけど

諦めなかったから

世界の終わりは来ないまま

二十二世紀のきみへ

ぼくは知っている

ぼくらは知っている

バイクに乗ったヒーローたちも

誰かのハグを欲しがると

ぼくは友達がないけど

ここらのなかでたたかっている

ガンバっている人たちが

世界のどこかにいるから

いまもそっだよ

孤独のなかでペンを執って

最初の文字を書いたときに

何ができるのかなあ

悩んだままで夜が明けた

そんなにうまくいかなくって

誤字も脱字も多すぎて

それでも続けたら

世界がちよっぴり揺れたんだ

二十二世紀に届け

きみが大人になる頃は

次の百年が始まって

びっくりなことも多いよな

ぼくは二十一世紀少年で

きみは二十二世紀少年

あとはきみの自由だ

ひとりも悲しませないって

ひとりもさみしくしないって

ぼくらは決めたんだ

二十一世紀の空の下

そんなにうまくいかなくって

ひどいことだってやったけど

諦めなかったから

世界の終わりは来ないまま

二十二世紀のきみへ